



あとむ

姫路科学館友の会会報 第177号(2022年03月)(友の会事務局発行)

「赤メノウ」

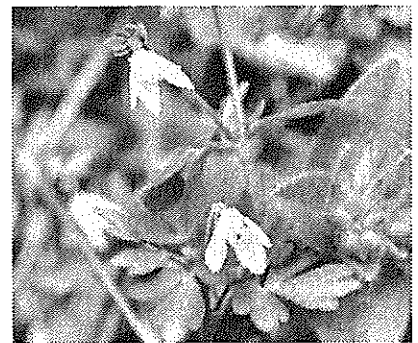
今年度の「未来を描く科学絵画展」の賞品は赤メノウでした。メノウは金や銀と並び仏教の七宝の一つで、勾玉の材料としても使われていたそうです。勾玉とは古代の装身具で、元は縄文時代に動物の犬歯に孔をうがったものからできたとか。なるほど、言われてみれば勾玉の形は犬歯に似ています。一般的に犬歯は、食肉獣のそれは発達して牙になり、草食獣では退化する傾向にあるそうです。進化も退化も成長も老化も、個人的には「・・・大体同じようなもの」と思っているのですが。

ある女優さんが、「歳を重ねてできないことが増えたことを嘆くのではなく面白がる」というようなことを仰っていました。「できることが増えるのもできないことが増えるのも生きているからこそ。“できる”と行動のスピードは速く、“できない”だとゆっくり。速度が緩やかになる分、それまで気付けなかったものに気付けるようになる」そうです。

(友の会会長 上田倫範)

花の歳時記 「ヒメウズ」(キンポウゲ科)

関東以西の、本州・四国・九州地方の畑や道ばた、石垣、林縁等に自生する多年草です。先端にかけてまばらに枝(茎)を出し、3~5月にかけて白色の5弁の花をややうつむき加減に咲かせます。葉はオダマキの葉に似た形をしており、花が咲いた後、鳥の足のような形状の果実をつけます。三つに分かれているスマレの果実とよく似ていますが、こちらは十字状になっています。



春に花を咲かせて、夏頃には目立たなくなるので、スプリングエフェメラル(春の妖精)の一つではないかと考えられます。

(友の会理事 古角孝之)

目次

- P1 会長挨拶(友の会会長 上田倫範)、花の歳時記(友の会理事 古角孝之)
- P2 地球と生命の歴史(姫路科学館 学芸・普及担当係長 徳重哲哉)
- P3 気になるムシ(環境科学大阪株式会社 森正人)
- P4 ヤマガラ通信(姫路科学館専門員・西播愛鳥会 森田俊司)
- P5 「科学の足あと」シリーズ(元姫路科学館 吉岡克己)
- P6 今日から電波天文学!(北九州市立児童文化科学館 前山大地)
北海道からのお便り(札幌市青少年科学館 学芸課天文係 福澄孝博)
- P7 科学のタネ(姫路科学館 学芸・普及担当 宮下直也)
- P8 館長の科学館だより(友の会常任理事 姫路科学館館長 中川吉郎)
姫路科学館友の会の情報